

第3回武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成委員会会議録

日 時	平成19年9月18日(火) 午後3時から午後5時まで
開催場所	武蔵村山市民総合センター 教育センター研修室
出席者	委員長、教育長、副委員長(第二中学校校長、第四小学校校長)、委員(第二中学校副校長、第四小学校副校長、第四小学校教務主幹、第二中学校教務主幹、第四小学校研究主任、学校教育担当部長、指導主事2名) 事務局(小・中一貫校開設準備室長ほか)
欠席者	なし
事務局	<p>1 あいさつ</p> <p>皆さんこんにちは。お忙しい所、第3回武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成委員会に御参加いただきまして誠にありがとうございます。協議事項に入りますまでの間、大変恐縮でございますが、事務局の方で司会進行を務めさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは会議次第にのっとりまして進めさせていただきます。</p> <p>まず、次第の1、教育委員会あいさつです。持田教育長、よろしくお願ひいたします。</p>
教育長	<p>皆さんこんにちは。第3回小・中一貫校カリキュラム作成委員会ということで、一言あいさつを申し上げます。</p> <p>夏休みが終わりまして二週間。新学期というあいさつではなく、夏休みが終わったというあいさつになりますと、今も委員長先生とお話したところですが、本市は二学期制ということで、今が学期末です。中学校では期末テスト、小学校の方でも学期末のまとめという時期です。そのように大変お忙しい中、古藤先生をはじめ、委員の皆様には御参会いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>前回、第2回委員会を受けまして、本日は一貫校の一単位時間や、生活時程、一貫校の特色となる教育活動等を検討していただきます。のちほど担当の方から詳しい説明をさせますが、8月の終わりに、予算の部分では、市の庁議を通りまして、9月議会で、ハード面の設計費が認められ、スタートしました。すでにソフト面のカリキュラムにつきましては、皆さんを始め、カリキュラムの作成委員会等で動いているところでございまして、ハード面、ソフト面両方の車輪が動き始めました。22年開校に向けて本格的に動き出したというところでございます。そういった意味ではハードとソフトの間と言いましょいか、例えば今日検討していただきます、色々な意味での枠組みですね、そういった一貫校の根幹をなす部分での話をしていただけることは有意義です。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日は、事前に御提出いただいた課題についてまとめてあるようですので、是非、忌憚のない御意見をいただきまして、よりよい案を煮詰めていっていただけると思ひます。</p>

さて、御存知のように教育はあまり政治に動かされてはいけませんが、国の大きな政治状況の中で、国会審議等を見ますと審議がストップするなど、色々な状況ですが、これは教育関係でいきますと、教育再生会議ですとか、一連の学習指導要領の改訂にかかわる部分ではどうなのかなということですが、政治とは切り離して、きちっと学習指導要領の改訂に向けて作業部会は進んでいっているというふうに聞いておるところでございます。従いまして新学習指導要領の告示が、何時になるかということですが、国からは、年度内にきちっとした方向が示されるといような状況であると思います。また、新しい学習指導要領が出来た段階で、現行の学習指導要領との関係で今、色々な案を詰めていただいているところですが、基本の部分、ベーシックな部分ではきちっと、皆さんの議論が次の改訂にも生かされていくというように思っております。細かい所では色々考え直さなくてはいけないところが出てくるかもしれませんが、大きなところでは、原理原則、基礎基本ということでは、今、皆様に検討していただいていることが大変重要なところではないかなというふうに思っております。また、そういった意味で生かしていただきたいというふうに思います。

その中で、皆様も既に報道等で御存知のように、授業時数がおよそ1割増えるということなので、現行の時間のプラスでどういうふうにやり繰りしていくのか。また、逆に総合的な学習の時間が減ることが示されておりますので、総合的な学習の時間のそれぞれ各学校の特色や、一貫校の様々な特色ある時間に充当しようとしてきましたので、総合的な学習の時間をどのようにしていくかというのが大きな課題となります。その辺は具体的な内容が示されてから、さらに詰めていかななくてはならないと思っております。

いずれにしても、本委員会は、本市にとって重要な課題であります小・中一貫校の開設に向けての教育課程編成と言うことで、特色あるカリキュラムをお願いしてあるところがございますので、是非、最終的に煮詰まるまでは、こういう事を言ったら出来ないのでは、とか、こういうのは無理なんじゃないかとかですね、はじめからタガをはめないで自由な意見を出していただきながら、いい案を作っていただきたいというふうに思います。既に、お手元に緑色の冊子があると思いますが、この基本計画につきましては全教員に配布してありますし、ホームページにも掲載しております。また、来月は中学校区毎に説明会も始まりますので、そういった意味では全てオープンになって進んでいっているところでございます。本日はこれから2時間ぐらいの時間ですけど、是非22年の開校に向けまして活発な御意見を申し上げます。基本計画の表紙の下の方に、今までは教育委員会と書いてありましたが、これからは武蔵村山市と記されています。市全体の一大プロジェクトということで進めてまいりますのでひとつよろしく願いいたします。簡単ですがあいさつとさせていただきます。是非実り多い会となるようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

事務局	<p>続きまして、本日の会の進め方について小・中一貫校開設準備室長の石田の方から御説明を申し上げます。</p>
事務局 (室長)	<p>2 本日の会の進め方について</p> <p>それでは、資料の御説明を申し上げます。資料1は既にお送りしてありますのを再度印刷いたしました。前回の会議録でございます。これについては、今日最終確認ということで特に御意見がなければ、ホームページに順次掲載をしていく予定でございます。資料2、資料3、資料4でございますが、こちらの方はカリキュラム作成委員会の作業部会、各専門部会の方の成果の一端の御紹介でございます。資料5、これが今日の協議でお使いいただくわけですが、資料5としてA3判でステープラ留めになっておりますが、こちらの方は順次資料6、資料7というふうに纏めて綴じられておりますので後程御確認をお願いいたします。</p> <p>なお、資料番号がございませんが、墨田区立寺島中学校の小川崇校長先生への取材というのがお手元にあります。こちらの方に関係する、45分授業の事も加えて、小・中一貫校に関係する記事、あるいは今、教育長からお話がありました国の動きを紹介している記事等を掲載してございます。よろしくをお願いいたします。</p> <p>続きまして、今日の会議の進め方でございますが、まず、報告事項を2点お願いしまして、続いて、協議事項(1)から(5)について御協議していただきたいと思っております。</p> <p>なお、終了後事務連絡としまして、次回までの課題について事務局の方から御説明をいたしますが、4のところで事務連絡でひとつミスがございまして、次第の「4事務連絡 第4回までの課題について 平成19年11月16日(金)までに提出」と記載してありますが、1枚めくっていただくと、「平成19年10月19日(金)までに提出」という形でこちらの方が正しいです。次第の方は11月16日になっておりますが、赤で訂正していただいて、10月19日、一か月後の金曜日という形をお願い申し上げます。事務局からは以上でございます。</p>
事務局	<p>それでは、本日の会の進め方について御質問等はございますでしょうか。ないようでしたら協議事項3に進みます。ここからは古藤委員長に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
委員長	<p>3 協議</p> <p>報告事項(1) 第2回小・中一貫校カリキュラム作成委員会 議事録</p> <p>それでは、会議次第に基づいて進めさせていただきたいと思っております。まず、報告事項(1)第2回武蔵村山市立小・中一貫校のカリキュラム作成委員会の会議結果について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、簡単に前回の議事録でございますが、こちらについてはもう既に事前</p>

<p>(室 長)</p>	<p>に委員の皆様全員にお送りし、期日を切って御返送いただいております。従いまして特に何もなければ、御承認ということで議事の方進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>委 員 長</p>	<p>ただいま事務局から御説明がございましたが、何か質疑等ございますでしょうか。それではないようですので報告事項の(1)につきましてはこれで終了いたします。</p> <p>続きまして報告事項の(2)第 2 回から第 4 回各教科・領域部会活動報告につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事 務 局 (室 長)</p>	<p>報告事項(2) 第 2 回から第 4 回各教科・領域部会活動報告</p> <p>それではお手元に資料 2 とございます「本市の子供たちに育てたい国語の力」という形で、専門部会は全部で 14 ございます。その 14 の部会の中で、保健部会を除く 13 の部会で全ての部会がこのような形で、子供たちに育てたい、例えば国語の力、そして重点指導項目というのは、今こちらの委員会でも検討していただいております。今日も話題になりますが、低学年部から高学年部、9 年生までの重点指導項目を全ての教科でこの様に検討していただいております。また、何案という形になっておりますので、確定版ではございませんが、進捗状況としてこの様な形でやっておりますので報告します。</p> <p>続きまして、資料の 3 でございますが、年間指導計画、国語のものと、同じく算数・数学の専門部会からの提出物を付けてございます。こちらは、9 年間を見渡した年間指導計画でございまして、小・中の連携の部分、例えば 6 年生と 7 年生の接続の部分にどのようなというような事はまだこの段階ではございません。ただこういった形で 9 年間見渡す形をまず、作っていただき、さらに検討を重ねていく、いわゆる基礎資料ということで御報告申し上げます。</p> <p>続きまして、資料の 4 でございますが、これも国語と算数・数学を持って参っておりますが、年間指導計画に基づきまして、今度は単元系統一覧ということで、1 年生から 9 年生まででどのような系統があるのかということで、例えば国語であれば「読むこと」という領域です。こちらについて「説明的文章」、「文学的・説明的文章共通」、「文学的文章」さらに「読書・情報活用」、「語句」という形でお作りいただいております。これが「書くこと」等にも実はあるのですが、今日は紙面の関係で持ってきてはおりません。あるいは、次のページを御覧いただきますと、算数・数学の系統一覧で「数」から始まって「加法・減法」、「乗法・除法」、「式表示」というふうな形になっています。9 年間見渡してどのような形でこれからやっていくのかというのが分かるようなものです。例えば、3 ページを御覧いただけますでしょうか。「時刻・時間」というものが、2 年生で「時計の読み方」3 年生で「時刻の概念」等を勉強しまして、4、5 と該当がなく、6 年生で「時間の分数表示」という辺り、あるいは「速さの計算」等もこの辺りでということですね。そして、7</p>

	<p>年生から9年生までは、教科書としては空白になっています。ただ例えば7年生から9年生の3年間でいわゆる「時刻・時間」というものがないかということではないわけです。つまり、そういった教科書の段階、あるいは今現実に行われている、各授業での系統をこの様な形で見ること、抜けている、あるいは随分習ってから時間が経って再度習うというようなものが明らかになりつつあります。これも基本資料でございますので、そういったかなり時間差が生じている内容、子供たちが勉強してから数年間勉強しないというような単元があることがわかりましたならば、その部分についてどのような方策をとっていくかということで、小・中連携というような部分が色濃く出てくるのではないかとこのように今想定をしております。</p> <p>いずれにしても、これはまだ途中の経過でございます、この後、専門部会毎に一回、各教科・領域の専門の学識者等をお呼びして、指導を受け修正をし、12月を迎えたいと、この様な形で計画しているところでございます。以上です。</p>
<p>委員 長</p>	<p>ありがとうございました。ただ今の事務局からの御説明につきまして、何か御質問等ございましたら出してください。</p> <p>それではないようですので、報告事項(2)についてはこれで終わりたいと思います。</p> <p>続いて協議事項の審議に入りたいと思います。協議事項につきましては、前回、第2回の委員会で協議した内容について、さらに委員の方一人一人が個人課題に答える形でレポートを出していただいております。事前の配布がございましたので、本日は各委員、お読みいただきたいと思いますが、まず事務局の方から資料について説明をしてください。</p>
<p>事務局 (室長)</p>	<p>協議事項(1) 一貫校の各学年の区分、名称、発達段階の捉え方について</p> <p>それでは失礼します。資料5からですが、前回事務局案として御提案したもののについてそれぞれ御意見をお寄せいただいている形です。委員の人数の関係で1枚にまとめることが出来ずに申し訳ございませんでした。こういう形で委員長以外の委員の方からの御意見が載せてございます。この辺りにつきましては、戴いたものをそのまま掲載する形をとっているのですが、御説明が必要な部分と、もう既に読んでいただいていると思いますので、説明不要な部分があるかと思っております。例えばこの「一貫校の各学年の区分、名称、発達段階の捉え方について」は御覧のとおり、学年区分の4・3・2の分け方については皆さん特段大きな変更がないと事務局では理解しておりますので、そちらの方はこれでよろしいのではないかと思います。ただし、学年の名称について、これは、はっきり分かれておりますので、協議いただくことが必要です。また3番の「発達段階の捉え方」については大半が事務局案という形なんです、若干御提案いただいている委員の方がいらっしゃいます。基本は、事務局案を基本に考えてきていただいておりますので、特段何も問題</p>

	<p>がなければ、そのまま進めていただいてもいいんですが、事務局案とちょっと違うと、こういう提案があるんだというように、ざっくりばらんにこうした方がいいんだという御提案をいただいて、進めていっていただければよろしいかなと思います。</p>
委員 長	<p>ちょっと目を通していただきながら、事務局の方で対応についてちょっと御説明いただけますか。</p>
事務局 (室長)	<p>1の学年区分については、これは4・3・2でいいということでもよろしいでしょうか。</p>
委員 長	<p>よろしゅうございますか。 (異議なしの声あり)</p>
事務局 (室長)	<p>それでは2番の学年名称についてなんですが、A委員の方からは別案という形で対案が出ております。そしてB委員、そしてC委員からも中学1・2・3年で残したいという御意見が出ています。ここは少し他の委員の方と異論があるところですので、これは御説明いただいた方がよろしいのかなというふうに思いますがいかがでしょうか。</p>
委員 長	<p>ではちょっとそのあたりをA副委員長の方からお願いします。</p>
副委員長	<p>私は、学年のまとまりの方は1年から9年でいいと思うのですが、グループ分けというのでしょうか、そのところで、中学年とか高学年という言葉は、小学校の一般的なところで使用されている言葉なので、要するに他校との関係で色々話をする時とか、そういう時に、E委員がそれについて書いてありますけれども、ちょっと混乱をするかなあということで、初等、中等、高等というふうに、何かしらちょっと分けられる方がいいかなということです。ただし、私の初等、中等、高等というのは、資料にも書いてあるのですが、いわゆる私立学校なども言っている学校毎の区分に、ちょっと似た言葉になってしまいます。高学年と言った時にはパッと他の学校と話すと、やっぱり5、6年生を高学年って呼ぶのだろうなっていうふうに思います。</p>
委員 長	<p>分かりました。では、B副委員長お願いします。</p>
副委員長	<p>私は、やはり他校と連絡をとる場合に、中学生は、中1、中2、中3と言うのが、一般的に今までも呼ばれているので、その方が話が通りやすいということとか、アメリカなどは、seventh gradeとか、eighth grade、ninth gradeと言いますが、</p>

	私の個人的な見解ですけど、非常に何年生だか分からないというのがあるので、地域の状況からこう考えてみてもやはり、中1、中2、中3という呼び方がふさわしいかなという事でここに書かせていただきました。
委員長	D委員はいかがですか。
委員	私はもう、このままです。学年は1、2、3、4、5、6、7、8、9と。後は分け方も、低学年部、中学年部、高学年部です。
委員長	ありがとうございました。C委員お願いします。
委員	小・中一貫校の意義とすると、1年から9年を通して教育するという意味があると思うのです。しかし、中学生の中で大きい問題なのは、「幼さ」というのが、非常に問題だと思うのです。生活面、学習面、すべての面で幼いということが非常に問題になっている気がするんです。小学校で1年生から6年生となった時に、たぶん6年生は、中1になる時にワンステップ成長するのだという思い、それをもって中学校に進学すると思うのです。そこで、名称でワンステップさせたいと思います。6年生の次に7年生、8年生という、小学生の幼さを引きずってしまうのではないかと思います。
委員長	ありがとうございました。E委員お願いします。
委員	私は、前期生、中期生、後期生というような分け方をしました。やはり一番ひっかかるのは、今までの枠組みが、特に中学年、高学年というのは、子供たちを口頭で呼ぶ時に、中学年部の皆さん、高学年部の皆さんでもいいのですが、むしろラベルを張り替えるならば全面的に張替えし、前期生の皆さん、中期生の皆さん、後期生の皆さんと言った方がスマートかなというふうに感じたのと、この呼び方はネットで検索してある学校が採用している呼び方です。それから全然関係ないのですが、付随する考えで、例えば1学期制、2学期制にしても、前期、後期でもよかったのではないかと考えています。ただ、ここには含まれていませんけれども、小・中一貫校の1学期・2学期という名称だって変えても構わないというように考えました。そうすると、前期生、中期生、後期生というのは駄目になってしまいますけれども、ということで、こういった名称を設定した理由としては、以下に書かれているとおり、全国の小学校、中学校とコラボレーションする上で不具合があるということ。それが実務上のちょっと弱い点かなというふうに思って名称を変えた方がいいと思いました。
委員長	ありがとうございました。F委員お願いします。

委員	私は特に、低学年部、中学年部、高学年部という形でよいと考えます。
委員長	それでは、G委員をお願いします。
委員	私も一応事務局案でいいというふうには思っているところです。ただE委員なり、B副委員長の方から出されている他の学校との混同の点がひっかかるのですが、小・中一貫校が進んでくればそれなりには解消されてくるのかなあという気はしているところです。
委員長	ありがとうございます。H委員の方はいかがですか。
委員	はい。私も原案ということですが、今お話がありましたが、私は中学校籍ですけれども、小学部とか低学部とか中学部とか、確かにそう言われれば、ぱっと小学校のイメージを持ちますけれども、やはり小・中一貫ということでね、1年生から9年生ということで考えれば事務局の提案ですっきりさせておいた方がいいのかなというふうに考えています。
委員長	それでは、I委員をお願いします。
委員	2つの議論があろうかと思います。1つは1年生から9年生という呼称の問題と、区分の問題です。まず、各学年の名称ですけれど、B副委員長、それからC委員からの中学1年、2年、3年という御意見ですが、先程、C委員も小・中一貫校の意義から考えると1年生から9年生という呼称の方が適切だと思うというような御意見もありましたが、やはり新しい学校を作っていくわけですし、9年間を通して育てるという趣旨から考える必要があると思います。幼さとは別の問題だと思うのです。むしろ1学年毎に確実にステップアップしていかなければいけないのであって、6年生から中学1年生になった時に大きく変わるようではいけないと思います。9年間通して確実に一步一步上がって行くというのが小・中一貫なので、やはり、私は1年生から9年生と言うのが一貫校の意義に沿っていると思います。ただ、学年の分け方の名称は、E先生の御意見なども参考にしたいと思っていますので、原案に賛成ですが、多少議論の余地はあると思います。
委員長	ありがとうございました。J委員お願いいたします。
委員	私は9年生という言い方の中で、小・中一貫で最初の4年間、そして次の3年間、そして最後の2年間に区切った考えについては、やはり身体的成長や精神的成長、発達段階を考えた上で、こういう区切りを小・中一貫の中で作っていく発想が大切だと思います。小学校6年、中学校3年という区切りとは違う発想で学校を作らな

<p>委員長</p>	<p>いと小・中一貫校の初志が貫徹できないと思っております。そういった意味で、例えば5、6、7年生のところを1つの固まりとして見たときに、そこで5、6年と中1というふうに区切りが言葉として出てきてしまうと小・中一貫校としての考えが弱くなってしまいます。そういう意味で9年生という言い方を付けてみてはどうかと思います。それから、名称につきましては検討の余地はあると思うのですが、私は事務局案の方に賛成です。小学年・中学年・高学年、あるいはA副委員長の初等・中等・高等という、この高学年、あるいは高等学年という考え方について、9年間に渡る児童・生徒の中で、一番大きな、上のお兄さんお姉さん達なのだという言葉に繋がるのではないかと考えております。</p> <p>はい。色々ありがとうございました。それでは名称については今まで皆さんからお出しいただきました御意見等を受けまして、一応事務局の方で纏めていただけますでしょうか。</p> <p>それでは次の「発達段階の捉え方」について、だいたいここでは概ね事務局案どおりだと思いますが、特に御意見のある方は出していただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局案の「発達段階の捉え方」なんですけれども、これはよく読んでみると学習に偏っているのです。基礎・基本ですけども、もちろん個性の伸張を図るというのが学習発展期であるんですが、やはりいずれにしても、学習面というのが前面に出てきています。学校教育の中で我々が目指すものとしては、1つは当然学習もあるんですけども、それよりもまた人格の完成を目指しているわけですから、やはり態度面についても、やっぱり何らかの形でそれぞれの段階毎に触れなければいけないのではないかなというふうに思います。しかし、生活態度の望ましい姿をそれぞれの段階で打ち出すというのもまた、混乱というか、煩雑というかすごく読み手にとって分かりにくくなってしまいますので、せめて学習面を重視するのであればその中の学習にかかわる態度面についてもそれぞれの段階毎に設定した方がいいんじゃないかというふうに思いました。その態度面を設定するにあたって、そうなるこの分け方、つまり基礎定着期、学習充実期、学習発展期という言い方も出来なくはないんですけども、それよりも本当にこれらの段階を精緻化する意味で、前期、中期、後期あるいは、具体的思考期、具体的思考期から抽象的思考期への移行期、というように読み手にとって、子供たちの心の発達というか、頭の思考の発達はこうなんですよ、だからこの様な、例えば前期、1年から4年については、基礎・基本の学習の定着が重要だと思っているし、それを目指しています。5、6、7年生についてはそれらを一層定着させますよ、そして現段階の中2、中3では一層の応用をさせますよっていうことであるとか、あるいは学習習慣、最後に書いていますけども、学習習慣については、小学年部については、これらの、これこれの態度を育成します。中学年についてはそれらを生かして学習習慣を確立させますよといった形でもっと精緻化して述べたほうが分かりやすいのではないかとということと、態度</p>

	面についても一貫性があるというふうに考えてネーミングも若干変更した方がいいんじゃないかというふうに思いました。
委員長	ありがとうございました。それ以外にございますか。
副委員長	私も今の考え方に似ているのですが、上の小学年部というところで、基礎定着期、これは学習基礎定着期と言うのかな、それは言葉だけですが、そここのところの態度面というんでしょうか、基盤となる情緒を育むということが入っているんですが、そこから先の思考の方ばかりというんでしょうか、そんなような形なんで、やはり3つですね、それぞれの段階における意欲であるとか、情緒であるとか、取り組む姿勢だとかいうのを付けた方がいいかなってということで、それを二本立てにそれぞれをするということで、追加・修正という案を出させていただきました。
委員長	はい、ありがとうございました。学習というのは、もう少し広く考えて、人間形成というか態度、そういう面も含んだような、何か表現というものもあるかなという御意見かなと思いますが、事務局の方から何か御意見はございますか。
事務局 (室長)	はい。失礼します。次のページを御覧いただくと、G委員あるいはH委員、I委員からも、この何々期という言い方について、習得、活用、探求。あるいは、習熟、活用、探求。さらには、習得、活用、応用。と、このような提案をいただいているところです。今の議論を踏まえながら、ひとつまた、纏めて御提案したいと思っています。
委員長	はい、わかりました。そういう方向で御検討いただくということで、よろしいでございませうか。 それでは区分につきましては、特に御意見のある方出していただけたらと思っております。 標準服については又、後で出てくるのですね。
事務局 (室長)	ここでは出てまいりませんので、4番についてはいくつか、A副委員長と、J委員からいくつか御提案があって、D委員からもちょっと書いていただいております。
委員長	ちょっと御説明いただけますか。
事務局 (室長)	はい、纏めて申し上げますと、A副委員長からは、「入学式・卒業式の取扱いと区分の関係をどうするか」と、すごく大事な部分が提案として出されております。D委員からは、「学級担任制、教科担任制の取扱いについて」提案がありました。つ

	<p>まり、簡単に言うと、4年生までは学級担任制、5、6、7年生までが教科担任が半分だと、そして最後のですね、8、9年生については、完全な教科担任制というような御提案があります。J委員からは標準服が、私服はどうかというような提案がございます。つまり、日野学園あるいは、伊藤学園という品川の学校などは、制服・標準服があるのですが、一貫校のシンボルとしての標準服という考え方なんです。そうではなくて逆に私服にすることで特色が出る。こういうふうな御提案をいただいております。以上です。</p>
委員 長	<p>付け加えることございますか。</p>
委 員	<p>私の方で標準服の話とかも出しておりますが、そういうシンボリックな部分と学校の中の行事の話など学校の様々な仕組みの話をする時に、4年、3年、2年と区切っていく考え方で全て見ていくかどうかで、進め方や内容が変わってくると思います。そこをしっかりと押えた上で、議論が必要ではないかと思っております。その一例として制服の話などを受け止めていただければと思います。</p>
委員 長	<p>それでは事務局の方で今の御意見等を勘案していただいて纏めていただけますか。</p>
事 務 局 (室 長)	<p>はい、承知しました。特に卒業式等、先程、C委員からも出ていたワンステップ上がるというような部分も含めて、この枠組みの中で、また案を提出したいと思います。</p>
委員 長	<p>はい、よろしくお願いたします。</p> <p>そうしますと、協議事項(2)の「一貫校の1単位時間の設定について」でございますが、課題としては、1単位時間を45分とする際の固定時間割についてという課題ですから、中には50分授業がよいという意見もありまして、その点から、少し皆さんの意見を出し合って、お話し合いをして、議論してみたいと思います。まず、50分という意見をお出しいただいたB副委員長の方から、細かく書いていただいておりますが、これは、中学校と小学校で現行が45分と50分ということもあって、どういうふうを考えていったらよろしいでしょうかね。B副委員長いかがでございますでしょうか。</p>
副 委 員 長	<p>協議事項(2) 一貫校の1単位時間の設定について</p> <p>中学校の方で50分という授業の、私が提唱しているということはやはり放課後の時間の確保ということ。学級活動とか、それから部活動、特にこの地域の、今後部活動というものが非常に重点課題になってくると、そこに力を入れていかなければいけない。そうすると時間の保障と、どのように放課後を保障するかについて</p>

	<p>うことでは、7時間授業を実施していくとその辺の保障が非常に難しくなるのではないかと思います。やはり50分授業で6時間というふうにしていった方が中学校の学年では保障できるということでそういうことを提唱しました。</p>
委員 長	<p>はい、ありがとうございました。F委員の方はいかがでございましょうか。</p>
委 員	<p>小学校は現状の45分という形でいいと思いますが、現在の中学校の学習内容を考えると50分間が適切であると思います。ただ絶対的にこういうふうにしなればいけないということではありません。時間帯が7時間とらなければいけないことは、もう少し検討していただければと思います。</p>
委員 長	<p>はい、ありがとうございました。A副委員長、いかがでございましょうか。</p>
副 委 員 長	<p>私も本格的には一律は難しいなというのが1つの考え方ですが、どこまでやっていくか、先程の区分でいうと結局小学年部っていうところは、45分出なければ学習は成立しないだろうと。逆に、中休みっていうのですかね、そういったものを取りながらいかなければいけない。また、8、9年生、高学年部については、中学校のいろんな授業などを見させていただいているかぎりではやっぱり50分授業、そして移動を含めて10分の休憩が必要なんだろうなというふうに思うわけですね。その部分をうまく生かしながら、その中学年部という合体しているところが、はたしてどんな時程がいいかなというあたりで考えられないかなというので、ちょっと具体的なおところははっきりしないですが、なんとか知恵をうまく出して、やはり二本立ては必要じゃないかなという考え方です。</p>
委員 長	<p>H委員いかがでございましょうか。</p>
委 員	<p>私は、養護学校にいた時に小と中、別だったと思うのです。45分で、中学は50分です。どこか休み時間で時間調整をしていたと思うのですね。それも1つの案かなと思いますし、B副委員長が言ったように中学校は部活動が、結構ウエイトがあるのできついなって気もするんですけども、ただ小・中一貫で考えると基本的に9年間45分なら45分でしっかり通して45分の集中力を子供たちに培っていくということもやはり大事なかなと思います。従来の感覚で見ているとどうしても50分とか、45分になってしまうので、発想を変えて45分でやって、それ以降はまた検討してみる事が大事なかなというふうに思います。そういう限りでは45分授業で統一したらどうかというふうに思っています。</p>
委員 長	<p>何か事務局の方で、調べられたようなことはございますか。</p>

事務局 (室長)	<p>はい。お手元に一貫校ではない、墨田区立寺島中学校の情報が入りまして、8月に電話による取材をいたしました。先に新聞記事を見ていただきたいのですが、この新聞記事を見ていただくと、日本教育新聞に載っているのですが、45分授業で週33コマ確保と。BSと書いてあるのは、ベーシックスキルというコマですが、いわゆる習熟度別プリント学習のようなものです。これが一つの特色といえ特色ですが、つまり、ぶら下がりの部分をBSというふうに位置付けているということです。実際にこれをどうやってとっているのかなというのは、この新聞記事だけでは分かりませんでした。それで、どんな工夫をしているのかということを含めて、週3日間7時間授業をやっているの、どうやっているのでしょうかということで確認をしたら、寺島中学校の方から、1枚目を御覧ください。このような表が送られてきました。この表は、私の方で打ち直した表でございます。考え方としては、これはJ委員からも出ているのですけれども、寺島中の場合は年間を現在6期に分けるそうです。これはF委員からも出ているのですが、講師の問題であるとか、教科の問題、時数の問題で、非常に管理が難しいですよと御意見いただいているのですけれども、逆に、ここは6期の時間割を作ってしまったって、1学期、2学期、3学期でシーズン毎に6期のパターンがあるそうです。1年から3年までそれぞれ違うものを作っているそうです。これ大変でしょうかって聞いたのですが、もうそういうコンピュータのソフトがあるそうで、必要条件を当て込めば大まかなものは出てくる。ただし講師が誰になるとか、そういう問題は確かにあるのだというふうには言っていました。御指摘いただいている部活動ですが、この考え方は、部活動を例えば2時半から普通にやるという考え方と、3時50分から通常やってるんだという考え方と二通りあると。要するに大まかに言うと、その学校で部活動の開始時刻をどこに定めていくかということで、考え方が変わってくる。活動は何時間以上やらなくてはいけないという制約はないので、元の新聞記事に戻っていただくと、7時間目があるのは、火、木、金ですけども、16時から部活動ができる。そして月、水、この2日間については7時間目がないので、もっと早く3時ちょっと過ぎからできるというような情報をいただいております。これが1点と、小・中一貫校関係では、校舎一体型の学校を調べたところ、45分をとっている所が多いです。40分という所もあります。さらには、A副委員長、B副委員長がおっしゃられた、2パターンをとっている学校もあることはあります。以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。まだ、校舎が1つの小・中一貫校ってというのは、そう多いわけじゃないので、事例はあるとしても、どういうメリット、デメリットがあるかについてはまだ確定的なものはないかなとは思いますが、しかし、これはやはり、中学生と小学生が一緒になっていますから、1単位時間をバラバラにするってわけにもいかないだろうと思えますし、今の御意見等を参考にしながら、もう少し、事務局の方で煮詰めていただければと思えますがいかがでしょうか。</p>

委員	<p>様々な御意見がここに書かれていて、どれもなるほどという部分があるかと思いますが、やはり小・中一貫校という視点からいつも考えていかなければいけないと思います。今、委員長がおっしゃったように、同じ校舎の中で違う時間割が行われるということのデメリットがあります。例えば子供同士が、9年生と1年生がかかわっていくであるとか、教員も相互に指導をしていくという様々なことを考えると、やはり全体で時間割というのが揃ってないと、色々な意味で一貫校の壁っていうのが出てくると思います。今まで、中学校は50分、小学校は45分やってきているので、どうしてもその方がやりやすいというのは、よく分かるのですが、そこをどう乗り越えていくかということを考えていかないと、本当の一貫校の意義というのが薄れてしまうという心配があるので、やはり原案の通り、45分で統一した形で進めていくのがいいと思います。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>色々な問題もあろうかと思いますが、今までの御意見等も入れながら、事務局のほう説明はありますか。</p>
事務局 (室長)	<p>了解しました。ここで、この場でもう後5分程いただいて、御意見をいただきましたのは、仮に、今、I委員の方から45分でいくという御意見もあったのですが、仮に45分と50分を混在させた場合に、運営上20分休みあるいは、15分休み、要するに、相互の乗り入れとか、中学籍の先生が小学校に教えに行くような、教科担任制をとるわけであって、中学校では授業がまだやっていますが、小学校の授業が始まっちゃったとかですね、逆もありますね。小学校の先生が中学校に行く、あるいは何か打ち合わせをするような時にどういった解決方法があるか。つまり、50分と45分が平行であっていいんですが、一部ですねF委員からノーチャイムが出ていますが、ノーチャイムだけで解決できない部分があるんですね。つまり、時間数、時数を一定にしておかないと、随時乗り入れができない。打ち合わせができない、一緒に遊べないという問題を、どう解決するかというところを対案で委員の方が出していただけると非常に事務局としては、ありがたく思います。</p>
委員長	<p>はい。分かりました。という事務局からの提案もございますので、今言われたような2つの時程を組んだとして、どういうふうな全体としての調整を図ることが出来るか、いい案があったら、お示しいただきたいということなんで、よろしゅうございますか。</p>
委員	<p>私も50分で最初シミュレーションしてみたのですが、やっぱり合わないんですよ。はっきり言って無理です。特に、もし50分やって、教員が小・中の中で交流するっていうのであれば、小学校5、6年生も50分授業じゃないとだめです。となると小学校5年生も50分授業、それは不可能ではないですけども、やはり</p>

	<p>ちょっと長いと思います。ということで、50分を支持される方はひょっとしたら私よりもいい考えが浮かぶかもしれませんが、かなり相当御苦労なさると思います。私は45分で提案したのですけれども、それでも、問題が生まれるんですよ。つまり、小学校1年生から4年生まで、いわゆる入学したての子供から、学校に慣れてきた4年生までですが、その子たちに中休みを取るか取らないかで、小学校5年生以上の時程と違って来るんですね。その小学生における中休みの意義っていうのは、その場で議論して、また後程出てくるかもしれませんが、議論して是非構築しておいてほしい。つまり、放課後、最近の子供は、ろくに一緒に遊んだりしないという実態が、色々全国各地で見られますよね。それを、単に中学校と同じように10分休み、10分休み、10分休みってやった場合に子供集団作りってどうなるのかっていうすごく不安があります。中休みを小学校1年から4年生まで取るとなると、チャイムっていうこと自体考えた時に、小学校5年生以上、中学生含めてチャイムが途中で違ってきます。という問題もあります。だから、1個解決してもまた次の問題が出てくると思います。</p>
委員 長	<p>はい、これは本当に大切な問題じゃないかなと思いますが、一貫校の中ではね。今、E委員の御意見等も大切なことではないかなあとと思いますが。</p>
事務局 (室長)	<p>C委員が、恐らく45分の計画で1本の時程をお出しいただいているのですが、例えば、これでいくと中学校が中休みを20分とるという形になってはいますが、現中1、中2、中3の子にとって20分休みというのがあって何かこうデメリットというのが予想されるかどうか。むしろ逆にいいのかどうか。C委員は10分休みになっている。ただし、掃除が中学校の場合、授業後になっているんですね。小学校の文化だと、昼休み終わってから掃除というものが多い。その辺りも含めて、もし、この事についてC委員あるいは他の委員から御意見があるようであれば、いただきたいと思います。E委員からも20分休みは大切だというのが今ありましたので、そういったことも含めてですね、御意見いただきたいと。ちなみに本市の場合は30分休みをとっている学校、あるいは20分休みをとっている学校、25分休みの学校などまだ混在している状況でございます。小学校の状況です。</p>
委員 長	<p>いかがでございましょうか。</p>
委 員	<p>5分休みでは、例えばチャイムで行動させようっていうことでチャイム着席等の指導は、成り立たなくなってくるだろうなと思う。10分休みがあって次の行動を子供たちに要求しようと思います。このため、10分休みは譲れないラインです。ただ中休みがないと、小学校で問題が起きるということで、それは受け入れようかと思えます。中休みは入れて、中学生もこの部分で休みがあっても特にデメリットがないだろうと思います。ただそうすると清掃が入る時間がない。清掃はその後と</p>

委員	<p>いう形で、部活動と平行するような形になってしまうんです。つまり帰りの会をした後清掃するというような形ですね。部活動の時間も取りつつ、中休みも取りつつ、チャイム着席もとると、こういうふうに考えるしかないかなというふうに思いました。</p> <p>C委員の給食の時間40分ですよ。12:25から13:05ということで、40分間。その中に昼休みも含まれています。まず40分だと小学校1年生は片付けを含めて、とってもじゃないが無理です。今ですら、入学したての一个月、二か月は、4時間目の授業を早めに終わって、そして準備をしているくらいですので、もうぎりぎりです。相当しゃべらないで食べるということであれば大丈夫かもしれませんが、ちょっと40分はきついかないというふうに思います。休憩を含めて40分は、もう食べ終わって片付けたら5時間目って感じになってしまうと思います。</p>
委員長	<p>その辺の所をひとつ御検討いただいて、纏めてもらう以外ないですね。</p>
委員	<p>そうですが、小学校の1年生と中3を合わせるというのは、これは明らかに無理があるわけです。小学校1年生の時間の所で調整があつていいと思う。この時程に合わない様なことがあつても。ただ、中学校の見方では、生徒達を鍛えなきゃならない部分であると思う。時間の管理とか色々な部分で。それがないと、ずるずるいってしまうことで、生徒を鍛えられないということがある。</p>
副委員長	<p>休み時間の異学年の交流ということまで考慮に事務局の方では入れているわけでしょうか。</p>
事務局 (室長)	<p>御指摘のとおりで、特別活動でそういった事は大事なかなというので考慮に入れて考えております。</p>
副委員長	<p>そうすると中休みとかそういう部分でもですね。</p>
委員	<p>はい。その点は今、私も日野学園とか品川などから聞いてみると、施設一体型ではやはり中休みを交流の一つの場面として活用していきましょうというスタンスが大きいですよ。ただ私はちょっと話はずれますが、清掃は、私の提案は昼食の後になっているんですけど、そういうことは有りうるのかなというのは若干思いますし、時間については、C委員が言ったように、中学校の1年生で保護者から苦情が多いのは、お昼時間が短い時なのです。ゆっくり食べられない。中学校は、温かく「慣れば大丈夫ですよ。」と言うとね、まあ二月で慣れてきますね。それは小1、小2に通用するとは思いませんので、ただ、そういう鍛えるという部分に関しては、6年生辺りは、中学校の時程でも十分にやっていけるかなというふうな思</p>

	<p>いはしていますので、その辺も含めて事務局で調整してもらえるとありがたいです。</p>
委員長	<p>はい。そうすると時程を含めて、今 45 分の問題が時程の問題も随分出てまいりましたので、皆さんの御意見にあるいはこういう実践校等も参考にしながら、時程を含めて、45 分というのは時程の問題にかかわるわけですから、一緒に検討していただいでよろしいでしょうか。</p>
事務局 (室長)	<p>1 点だけですね、G 委員の 2 番の時程の表の説明について御説明をいただけるとありがたいと思います。G 委員の方からは、3 パターン、8:10、8:00、8:00 という、別案としては 8:10、8:00 ということなので、表中のマル数字については恐らく休み時間というような形で、ちょっと御説明いただけるとありがたく思います。</p>
委員	<p>別案ではなく、最初の案の方ですけれども、一応 3 パターン組んでみたのは、中休みが取れるか取れないかの部分と、合わせて組んでみましたら、どうしても朝を早めるしか手がない。1 校時の始まりを最大 8:20 まであげないと中休みはどうしても取れない。という実情があるということです。それならば、土曜日をやって、6 時間で切って、土曜日をやれば普通にできるのかなということが別案で挙げてあるところです。毎週やるか隔週にするかは別ですよ。その方が全体から見るとあまりキチキチしない方がいいのかなという気がします。</p>
委員	<p>授業を早めるという発想は私も考えたのですが、それで結構な解決は出来るんですよ。</p>
事務局 (室長)	<p>それではですね、今議論していただいた事を踏まえて、纏めてこようと思っています。委員の皆さんに確認なんです、1 つは 45 分あるいは 50 分っていうのは、今のお話を受けると、まあまだ双方あるのかなと、御意見としてはあるのかなというのが事務局からの感じです。45 分、やっぱり 50 分がいいって方もまだ、委員の中にはいらっしゃるということで、それを踏まえて対案を作ってきますけれども、1 つは例えば、給食前までは 45 分、そして給食後は 50 分であるとかですね、それから今出た開始時刻を早めるであるとかですね、それから更には専科いわゆる実技系のものについては 45 分であるが、2 コマ続けて、様々な御提案があるんですがそういった事をなるべく生かすような形で、2 案程度作ってまいりたいと思っておりますが、そういう御理解でよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>いかがでございましょうか。今、事務局の方でそんな案を作ってみて御検討いただくということでよろしゅうございましょうか。</p>

委 員	すいません、1点。専科系の時間というのは。実技教科が2時間ですか。
事 務 局 (室 長)	実技教科を2時間続けて、例えば技術家庭の ^{わざ} 技、あるいは家庭、あるいは音楽、あるいは美術、2時間続きの御提案を委員からいただいています。
委 員	それは、授業時数の関係で、そんなには取れないはずです。隔週とかになるから。先程の6パターンの倍のパターンなんてことになってしまうので、ちょっとそれは厳しいですね。小学校の専科の考え方だったらいいですが、中学は35とか95とか今度どうなるか分からないですが、半端な数字で入っているので、それを2時間連続なんてことになると大変です。
事 務 局 (室 長)	今の事務局側からの専科を2時間続きってというのは小学校の感覚だと思うのですけれども、それだと中学校の今の学習指導要領上はきついという御理解でよろしいでしょうか。
委 員	現行の学習指導要領からしても、組むのはきついと思う。
事 務 局 (室 長)	分かりました。
委 員 長	<p>それではH委員の意見も入れて、あまり複雑なものだと学校の方もやりにくいし、また出来ないかもしれないし、御検討いただけますか。</p> <p>それではその2番目のところのかなり時間をいただきましたが、「一貫校の1単位時間の時間の設定について」と時程の問題については以上でよろしゅうございますか。御意見は、他にございましたら言ってください。</p> <p>それでは協議事項の3番目の「一貫校の年間授業日数及び総授業時間について」の項目のところに入りたいと思います。これは今ちょうど新しい学習指導要領の問題が出てきておりますので、どちらにしても、教育委員会と学校の裁量権の拡大といいましょうか、創意工夫の上に時間数を確保していかななくてはならないような状況かと思えます。この会議の議論が学校に即、参考になると思えますので、これは是非お一人ずつ御意見をいただいた方がよろしいでしょうかね。土曜日の問題も入っておりますので、A副委員長の方から御意見よろしいでしょうか。</p>
副 委 員 長	<p>協議事項(3) 一貫校の年間授業日数及び総授業時間について</p> <p>土曜日の位置付けということですが、やはり土曜日をやる価値というか意義はですね、授業時間を確保するとか増やすというところに持って行って、いわゆる通常、特別な何かイベントというよりは、通常の授業、時間割上の授業の位置付けで、生かすと。それによって、私は学習時程の中で、水曜日、今小学校では研究授</p>

副委員長	<p>業、その他水曜日の5時間目などに持ってきたりするわけですが、その部分を確保することによってかなり学校運営上、これだけの大きな組織の中でやるとなると会議も、例えば水曜日の午後に3会議くらい持ってきて、じっくりと取り組まないと厳しいかなということでその部分も含めて可能になってくるかなという意味で土曜日をいわゆる通常の過程に位置付けた授業として行うという形です。</p> <p>2番目の夏季休業についてですが、今年の暑さから考えるとエアコンは必要かなということです。これはちょっと設備の話になってしまいます。いずれにしても、もし実施するんであれば8月の後半というよりは、7月に持ってきた方がいいと思います。というのは、やはり9月1日始まりというのは2学期制であってもやっぱり9月1日というのは様々な保護者の感覚的なものを含めて、いいであろうと。であれば7月の方に持って行って、夏季休業の自主学習等を含めた充実というのも含めて、7月に5日間。ただ給食は恐らく出来ないという事になれば、午前の授業というふうになるんだと思います。それから3番のところは配慮事項というか、他校ともしこれが違い、一斉ではないとすれば、不満にならないように。前に説明が十分にされないといけないということです。</p> <p>私、新宿にいたものですから、新宿は夏季休業5日短縮したのですが、そのときですね、思ってもみなかったんですが、保護者の方から他のそれまで行われていた所属団体の関係で、8月の終わりを5日間早めたために、色々日程が狂ってしまったと。またこれは学校ですからそこは強く主張したのですが、塾があってというような思わぬところで苦情があったので、その意義をですね、こうやるんであればこういったことのメリットがあるんだということを早めにPRしていくことも必要かなという、ちょっと配慮事項です。</p> <p>1番目の土曜日の授業ですけれども、私は総合的な学習を大いに利用すべきだというふうに思っております。それはいつも外部講師を招聘する場合に大変月曜日から金曜日の時間帯ですと、なかなか外部講師の都合が付かないような時が多いものですから、そういう意味では土曜日にいらっしゃってくださる可能性が高いということでそれを総合的な学習の時間において利用する。また、特色ある教育ということですね、時間的な余裕があるということでは、そういう特色ある授業の展開ができると考えます。それから2の夏季休業日については、授業時数について十分足りているならば、特に実施しなくてもいいのではないかと。実施するならやはり冷暖房設備の必要があるということです。ただ他の地区などで、7月の終わりに5日間、夏季休業日を授業の位置付けということなどは、職場体験というか、そういう事での利用などもしています。そのことについて8年生だけでなく、その他の学年で何かうまく考えながらであれば、そのことを実施するのも可能かなということは考えました。原則はやはり冷房設備がない、そういう状況で、難しいところがあるのではないかと思います。3番目については特にありません。</p>
------	---

委員	<p>まず土曜日の授業というのはやはり行った方が、普段月曜日から金曜日まで7時間というのはかなりきつく感じたので、土曜日を行えばその分授業時数確保はできるのではないかとということ。それから夏季休業日もやはり始まってすぐの7月中に授業時数確保の意味で行うのであれば有効ではないかというふうに考えました。</p>
委員	<p>私も総合等で、土曜日に発表会なども含めて行うようにすると思う。また、中学校の部活動がかなり大きいウエイトを占めるのです。まだ土曜日、日曜日で公式戦の大会日になっております。私学で土曜日の授業をやっている学校もあって、中体連の大会等で出てくるときに非常に厳しい日程をこなしていくことになりま。出来たら土曜日は総合または部活動という形で位置づけてはいかがかなというふうに思います。夏季休業日の授業ですけども、やはり、今年の暑さを考えると最上階の4階などはやはり40近い気温になっていると思うので、その中での授業というのも難しいだろうと思います。やはりここも、外へ出る職場体験等に使うような形では可能なのかなというふうには思います。</p>
委員	<p>土曜日に授業をするということで、それを議論する前に順番がどうか私もはっきりとは明言できないのですが、要するに一貫校の特質・特徴を最も打ち出すものはなんなのかっていうのを、私も含めて皆さん方の頭に入れた上でじゃあどうしようというふうな考え方をした方がいいと思いました。</p> <p>例えば、学力を一層アップする学校だよ、ここに来れば勉強が出来るようになるよというのであれば、当然ながら土曜日の使い方も学力向上にかかわって、基礎・基本の充実であるとか、そういったものが入ってくるのではないかとこのように思っています。それよりも様々な体験を通して人間性を豊かにするよってことであれば体験重視の活動が入ってくるでしょうし、なかなかそういう一貫した考えがない中で、私はここには書かせていただきました。その中で土曜日の授業につきましては、まず優先的に入れるのは、保護者に公開するものからどんどん埋めていくということ。更に、基礎・基本。本市ではかなり重視しておりますので、教科学習の中でも基礎・基本の時間ということで1コマないし2コマ、きっちり位置付ける。それについての教科についてはまだ検討の余地があるかと思えます。加えて、教科の授業ってというのは当然ながら教科書を活用した通常通りの授業でもいいのですが、ただ土曜日の授業については、基本カリキュラムに基づいた独自の活動を組んでもいいんじゃないかということでここでも特徴を打ち出せるかなというふうに思いました。夏休みにつきましては正直申し上げて毎週土曜日授業するのであれば、夏休みの5日間はいらんんじゃないかというふうに思ってます。隔週とかそういうのであれば、私はどっちがいいかなと思ったんですが、暑いけれども8月末がいいかなと思ったんです。7月末はあまり変わらないんじゃないかなって思って、どうしてかって言うと他の学校も夏休みなのになんで俺達勉強しなきゃいけないのっていうよりも、なんでもう夏休み終わりなんだっていった方がまだ子供は受</p>

	<p>け入れやすいんじゃないかなと。他のニュースでもやるじゃないですか。もうこの地区夏休み終わって勉強始まってますというニュースになる。いずれにしても8月末に、もし持ってくるならばそこから1学期終了までの時間を若干増やせるかなと思っているんですよ。9月、そして10月の1学期終了まであまり時間がありませんからそれプラス5日間というのがあれば夏休みにちょっと忘れかけたやつを復習して、9月からおもいきり授業に入れるかなという考えもあります。</p>
<p>委員</p>	<p>土曜日の授業につきましては、総時間数を考えて各教科にゆとりを持たせるために、必要な時数を計算して日数等を決めるとよいと思います。何を教育課程の中でやっていくかあらかじめ決めておくということが大切です。基本的に実施していくとするならば、午前中3時間程度で授業が公開できるような形の位置付けでやっていけるとよいと考えます。2番目の夏季休業中につきましては、8月の最後の週で実施するとよい。また、土曜日実施においての不足があれば、7月の夏休みの始めと8月の終わりの5日間あわせてやることも考えられます。ただ現状としては冷房施設がないので子供の負担が厳しいと考えます。あと年間指導はそこに書いてあるとおりです。</p>
<p>委員</p>	<p>土曜日やるのだったら通常授業の位置付けがよろしいかなというふうに僕は思います。2つ目はクラブもやる日もあるのかなというのが1つです。3つ目は先程ベーシックスキルなんていうのもありましたけれども、十何年も前から励み学習っていうのがやられているというところもあるので、漢字・計算、それから楽器・器械運動などは学年を解体しての励み学習っていうのは実践もかなりあるのでそこら辺も1つはやる手もあるのかなというふうには思っています。夏季休業ですが、施設上の問題が解決されませんでしたので、水泳でもやっていけばいいかな、毎日1回ぐらい入れてやらないといけないのではと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>基本的には原案に賛成です。やはり授業時数を少しでもたくさん確保していくというのは、本市として、これから全体の学校をリードしていく学校のあり方だと思います。確かに今家庭学習の習慣化と、家庭でどれだけやらせるかということが大きな課題になっているのだけれども、やはり本市の現状からいうと、学校において授業の中で丁寧に指導していき、その上で家庭と連携していくことが大切であるということなので、本校で出来る限り授業時数を確保していき、それがモデルとなって全校に広げていけるようにしていくことが大事だろうと考えています。</p> <p>土曜日をどのように組んでいくかというのは少し幅があっていいかと思います。基本的には通常の授業とその中の、とりわけ総合であるとか行事で地域・保護者と連携ができるような内容を中心に土曜日を設定するとか。それから8月は最後の5日間、4時間ずつ設定して、個別学習のような形の補習授業であるとか、発展的な個に応じた学習とか、そういった時間にしていくのがいいと思っています。</p>

委員	<p>E委員のお話がありましたが、特別活動・学校行事などについて、この小・中一貫校の教育活動の重点をどこに置くのかというところが年間の授業日数に影響すると考えています。特別活動あるいは学校行事の取り組みについてじっくりと時間をかけてやりますよという特色が打ち出されるとなると、その分授業時数や日数が不足するので、土曜日ないしは夏季休業日にも勉強をしっかりとやりますよという筋道も考えられると思いました。そうした特色を示す取り組みがそんなに授業時間に影響しないのであれば、極端に言えば、現行の教育課程の中でもなんとか授業時数を確保する努力をしております。1つの発想としては、土曜日、あるいは夏季休業日の授業について、私の回答は、メニュー選択方式なんて書いていましたけれども、中学校の選択教科のような発想で児童・生徒自身に自分の不足する学習、あるいは頑張りたい学習について選ばせたり、補充ないしは発展的な学習をする場を設けて主体的に学習するような学校生活を作り上げたりしてはどうかという提案です。その場合に授業時数としてカウントできるかどうかという問題が出てきますので、中学の場合は選択教科とうまく重ねることは可能かもしれませんが、小学校の方のカウントについて厳しい部分があるので、かなり課題が残っております。私の提案は以上のような内容です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。これをまた議論すると色々御意見が出るとは思いますが、ちょっとこの場で纏めるというのは難しいかなという気もいたしますので、この点につきましてはまた事務局の方で、色々議論が出ましたので、その点を検討いただきますでしょうか。</p>
事務局 (室長)	<p>新聞報道でもこの時間数については、小・中一貫校の話だけじゃなくて、全市のこれにやるとしたら一緒にやりますので、8月の末にするのか7月に入ってすぐにするのかを含めて、これは全市の校長会に教育委員会の方では提案を投げていっていきますけれども、ここで議論していただいたことはその礎になるものでございますので、大変ありがたく今拝聴したところです。今、御指示がありましたので、今のお話を受けて再度ですね、提案をしたいと思っております。</p>
委員長	<p>続きまして協議事項の(4)の「一貫校の各教科・領域に関する特色について」これはまあ実に色々な特色が出ておりますので、ある意味ではわくわくするような教育活動も展開されていくわけでしょうが、ここでは纏めるということではなくて、特に時間があまりございませんので、御説明をいただける先生、中学校1人、小学校関係1人で御意見をお書きいただいたものをお話いただきましょうか。</p>
委員	<p>協議事項(4) 一貫校の各教科・領域に関する特色について</p> <p>1つだけちょっと、企業と連携がとれないかなと、私、マイクロソフトを例に出したんですけれども、企業と連携がとれば最先端の機器が使えるのと同時に、共</p>

副委員長	<p>によりよい方法を模索できると思うんですね。企業のノウハウと学校経営と我々の指導に対する考え方ということで、恐らく、この場合は携帯用PCを出したのですけれども、そういったものをですね、武蔵村山の予算の中でやるとなると、なかなか限界があると。そこでスポンサーではないですけれども協力してくれる企業と連携をとって、子供にとってより良い物を入れていければというふうなことを考えてこのマイクロソフトを例に出しました。</p> <p>この6つの課題というのは非常に大事で、すべてやはり網羅したものを実施していくことが大事かなというふうに思うわけですが、私が書いたのは今本校でやっていることなんです。それを、やはり継続して実現できれば私はいいいんじゃないかと思います。弁論大会。やはり言語力を非常に力を伸ばすためには有効だと思います。各学年で課題を決めて毎年1回ずつ国語科の教員が指導しながら実施することでやはり表現力というものは十分ついてくると。それをやはり全校生徒の前で示すってことはですね、これは小学部の子供たちにも、上級の学年の者がこう表現していけば、非常に教育力となってその成果が現れるという。私も実際体験していることなので、是非こういうことを実施していけばすばらしいと思います。それから朝読書、これも他の先生方とタイプが違いますが、これも徹底することによって、読書力それから読解力、想像力、表現力そういうものも付けるものは基礎だということですね。そして私はやはり感想文コンクールを実施するってことも大事だと、一方では読書には文章を書かせることにはマイナスである。そういう意見も、非常に強い意見もあるので、私はやった方が力が、これも向上するということを実際体験していますので、是非これはしたい。それから百人一首大会。これは暗記という部分ではですね、これも非常に言語力の育成に繋がるということで、古典の暗唱その代表的なのは百人一首ですよね。それからまた、各学級での1分間スピーチ、こういうのもよくやっているわけですが、これら全て実際に本校でもやっている部分です。それから情報リテラシーというのはパソコンはですね、これは特色としたいところです。全ての活用できる授業ではね、どんどんそのパソコンの授業を取り入れる。それから合わせて情報モラルについても、しっかり教え込むということが必要です。それからキャリア教育。これも1つの大きな柱で現在、学校でもやっているわけですが、職場体験そして農業体験ですね、これが地域と繋がりがながら実施しているものとして大変有効です。地域と繋がり、この武蔵村山の農家との交流というものが、また大変プラスに作用します。それから、これも職業調査それから上級学校・高校調べ、それから生き方の学習会、三本柱で実施していることですが、これも非常に結果として好評ですね。それから規範意識を育てる心の教育、こちら大事な柱で、それをボランティア活動とか、それからもちろん道德教育を中心に、その根底にあるあいさつ運動とか、それから朝礼、そして地域の方を招いた心を育てる話、講演会そういうものを実施することができますね、心を育てることができるんだと思います。それから英語力ですけれども現</p>
------	---

	<p>在ももちろんスペリングテストとか、それから低学年からですね、遊びの中で授業を行うわけで、授業の中に遊びを取り入れるんですけれども、遊びを取り入れた英語の授業、それから英語による弁論大会。それにALTの授業を低学年から導入とか。教師の英語力の向上、それから英語の発音を重視することを低学年から徹底するとですね、大変英語力が向上するというので、発音を重視する教育っていうことはですね、大変英語力の向上には役立つということです。是非やってほしいと思います。それから体力向上、これは部活動の充実が第一条件だと思うのですが、私もいつもこういうものを提唱してくる場合に、地域の子供たちの現状というのを、それから地域の親の現状、それをこう合わせて考えながら、現状はやはり子供たちの学力というのは上部のものと低いものと二極化になってしまう。そうすると、学力の高い生徒にとっては色々な方策というのは非常に功を奏する場合がありますけれども、基礎的な学力に課題のある生徒にとって功を奏するのは、最善の指導ってというのはどういうものが最も適しているのか、そういう子供たちがなおざりにされないような方策をいつも考えていかなければいけないんじゃないかなっていうことを考えるわけです。是非、照準をその辺に合わせながら方策を検討していただければと思います。</p>
委員 長	<p>ありがとうございました。その他の先生方からもたくさん御提案をいただいているわけでごさいます、本当は全部やればよろしいかと思うんですが、事務局の方で本当にいい提案が色々出ておりますので、お纏めいただけるということでお願いしたいと思います。</p>
事務局 (室長)	<p>承知しました。</p>
委員 長	<p>最後のところでございましょうか、これもまた大変大きな課題だなと思うのですが「第四小学校と第二中学校における平成20年度の教育課程編成について」このことにつきましては、本委員会の委員でおられます四小と二中の校長先生、それから学校の幹部の先生方がいらっしゃるわけですので、これはI委員とJ委員から御提案をいただいて、あとは両校のそれぞれの方に現在の進捗状況についてお話いただくということにさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございませうか。</p>
委 員	<p>協議事項(5) 第四小学校と第二中学校における平成20年度の教育課程編成について</p> <p>私の方でここに書いてあるのは、全てが実現できるかという、現実的な日程では難しいものもあろうかとは思いますが、提案ということで考えていることをごさいます。やはり行事の連携などはもう進められると私は考えています。運動会も</p>

	<p>一緒にやっていく中でよりよいものを作っていくという発想でいくべきと思っています。遠足、清掃活動、音楽会、合唱コンクール、入学式、卒業式、あるいは教員の交流としても合同研究会のテーマを決めた上で実際に研究授業という形で、合同で行っていくなどが考えられます。あるいは生活指導、行事開催のための合同職員会議も年間の予定表の中に最初から入れていったり、PTAも合同で行っていったりできないでしょうか。あるいは教科等における日常的な交流については、音楽、図工、家庭科に総合など、四小に二中の先生が指導すること、あるいは夏季水泳指導や、算数の少人数指導のあり方、小学校6年生の授業に中学校の先生がT1として入っていただいて、小学校の先生がT2として担当するというようなことを考えました。交換授業についても同じようなことになるかと思いますがそこに書かれている通りでございます。19年度中に実施できるとしたら、合唱コンクールや落ち葉拾い等できるのではないのでしょうか。読み聞かせとか、箏クラブの交流などは既に実施しています。それから中学校卒業式に今年度もなんらかの形で小学校の代表者が参加できないかないうようなことも考えました。</p>
<p>委員</p>	<p>私の方は行事など合同にできるものということで、最初に、象徴的な学校を代表する大きな行事のどれか1つをやるべきかと考えています。運動会、学芸発表会、合唱コンクール、こういったものをどれか1つでも取り組んでみることによって、手順とか色々打ち合わせする部分が見えてくると思います。それが1つ目です。それから、と続きますけれども、これは作業手順のような提案ですが、縦軸に9年分、横軸に4月から3月まで月別にしてみて、小学校の1年生段階から中学校3年生段階までの宿泊行事や校外学習などを全部並べてみると良いと思います。並べてみることによって9年間通して児童・生徒をどの様に育てて行きたいのかということがかなり見えてくると思います。その中で来年度の教育課程に生かせる部分が見つかると思います。同じように保護者会やPTA活動など保護者を対象にした取り組みにつきましても、9年間お付き合いをするという発想の中で並べてみることによって、ある意味保護者の方へのメッセージをどの様に送っていくのか、学校にきてもらうタイミングを、9年間を通してどういう機会に来ていただくのか、あるいは相談や面談のタイミングなどを9年間1つに纏めてみるのが、来年度の教育課程を考える上で役に立つと思いました。それから教科担任制は小学校の5年生、6年生段階の中で導入できるのではないかと思います。これはやはり免許とか授業の関係で実技教科中心にまずは試みることができると思います。どの先生も試みやすいのは道德の授業なのでやってみてもよろしいかと思いました。</p>
<p>副委員長</p>	<p>現在は定期的に小学校と中学校のこの委員会とは別に現場でのプロジェクトという形で月に1回、または2回程度メンバー的にはだいたいこんなメンバーなんですが、それぞれ他の主幹も加えた形ですね、プロジェクトチームが立ち上がっております。その中でこの部分については検討できる部分また既に3番のところの</p>

副委員長	<p>19 年中に言う辺りは実際にそのところは中心となって既に進行中のところが随分あります。今後もそのところで具体的な来年度の教育課程については詰めていくという形になると思いますので個々にいただいたものを埋めながらやっていくということで進めたいと思います。</p> <p>今、A副委員長さんの方からのお話のように、月1回大筋のところでは小中の管理職、そして主幹が集まりまして、検討委員会を持ってあります。そして細かな調整を行うということでもあります。それから、今後の教育課程という立案に関しましては、合同行事というものの立案がございます。これは、具体的には運動会等で、もう1つの柱としては授業交流、その具体的な計画ということ。その2本だと思えます。そして、具体的に今、方向として授業交流が考えられるものというので音楽とか、それから後、美術、技術の領域で考えているということですね。それから合同行事といいますが、それに合わせたものとして、部活動で、中学校の教員が小学校の児童を教えることができる。バレーボール等ですね。それから後、読み聞かせに中学の教員が参加したり、小学校に中学生が読み聞かせに行ったりなど、そういうことも検討されております。今年度中は、中学生による読み聞かせ、それが今、計画されていること、それから文化庁の多摩の舞台芸術祭典ということで、これも合同で行うということで車人形の実演があるわけですがけれども、小学校の5・6年生も中学校に来て、一緒に参加する。そして、一緒に車人形を中学生とともに動かすということがある予定です。それから後、これは11月に行われる四小の方の箏の発表です。それを小中両方で、都庁の方に行って発表するという、そういう機会を持つということ。それから講演会として、これは二中校区の取り組みですがけれども何か講師の方をお招きして、話を聞く会ということで、これはあの小中の保護者をまた対象にしてですね、また地域を含めてですね、合同協議としてですね、実施する予定にはなっています。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。もう既に色々な工夫をされておられるようでございますので、来年、20年度につきましても色々な工夫、あるいは行事等も計画の中にあるようでございまして、なんかこうぼつぼつではございますが、着実に進んでいるように思います。ありがとうございました。もっともっと時間を取りながらやればよかったのでございますが、もっと他の委員の御意見も色々とお出しただけの時間があればよかったんですが、司会の不手際ですみません。十分な御意見をうまく整理できなくて申し訳ございませんでした。それでは、これで一応協議事項につきましては終わらせていただきまして、もう1枚の資料の4番目の事務局の「第4回までの課題について」説明をお願いします。司会をお返しします。</p>
事務局	<p>それでは、協議事項、多くの課題について御協議いただきまして、ありがとうございます。それでは最後になりますけれども事務局連絡ということで、「第4回まで</p>

<p>事務局 (室長)</p>	<p>の課題について」また宿題で申し訳ございませんけれども、事務局より御説明申し上げます。</p> <p>4 事務連絡 第4回までの課題について</p> <p>委員長ありがとうございました。今回は内容が非常に盛りだくさんで、とても1時間あるいは2時間である程度の結論と言えるような題材ではなく、本当に御無理を申し上げて、申しわけありませんでした。</p> <p>それでは、今お手元に次第がございまして次のページを御覧ください。第4回までの課題でございます。来月19日金曜日までに提出ということで、1か月後でございます。この課題につきましても委員長を除く全委員から御提出をお願いしたいと思います。分担していただいても、学校毎ですので結構ですけれども、出来ましたら個人的な意見で構わないと思いますので、出していただけたらと思います。全部で6つございます。次のページを御覧いただくと、様式1がございます。様式1は教育目標でございます。教育目標は昨年度の委員会から、「豊かな感性と知性をはぐくみ、心身ともにたくましく、自立した一人の人間として、力強く生きていける総合的な力を身に付けた児童・生徒を育成する。」と、このような御提案を昨年度のカリキュラム作成委員会からいただいているところでございます。</p> <p>この教育目標そのままでよろしいかとは思うのですけれども、なかなかこれを覚えていただけるかということ、なかなか難しいかと思えます。勿論こう言った文言は非常に大事でして、理念でございますので、これは昨年度の御報告を受けてですね、大事にしていくわけなんですけれども、例えば、台東区立上野小学校では、「自分が好き、友達が好き、町が好きな上野の子」と。これが教育目標でございます。あるいは千代田区立泉小学校では「人に優しく、自分に強く 明るく元気な泉の子」これも教育目標でございます。もっと簡明な、あるいは簡明だけれども、教育理念がわかる、子供も覚えている、いつも合言葉のように使える、この様なものが、これからの教育目標としては、必要ではないでしょうか。</p> <p>教育目標については、各学校がこう連綿と続くものを大事にということがあるんだけれども、校長の裁量で変えていっていいものかもしれません。従いましてこの教育目標が今度の一貫校の校長先生がお取りになるかどうかはさて置いて、一貫校の1つの教育目標の提案という形で御討議いただきたいと思えます。なお、現行の二中と四小の教育目標がなくなるものではありません。この一貫校のものがセットされたことによって変わることはあっても、学校はなくなるわけではありません。ただし、それは前面に出なくなるというような御理解でいいのかなと思えます。そういった事で1番目としては教育目標、ベーシックになるものは2行ございますので、この2行がいいということであれば、現行どおりというか、原案どおりという形で結構でございます。さらに、目指す子供像ということで、報告書の中には、知的能力、対人関係力、自己制御力ということで御説明があります。人間力を育成する学校ですから、この3つの観点というのは人間力を形成する構成要素になってい</p>
---------------------	---

るんですね。ただ、非常にこれも一般の方には分かりにくいというふうに事務局では考えています。知的能力って言って、それが目指す子供像を知的能力でどういうふうに表すか。何かこう別の言い方でこれらをうまく表現するものが、子供像としてないでしょうか。何々する子というような言い方です。対人関係力というキーワードで「何々する子」というような、子のつくような、生徒でもいいです。児童でもいいです。そのような御提案がいただけたらというふうに思っております。

次のページを御覧ください。様式2でございます。様式2については「校訓」です。一貫校の校訓、校訓とはその学校が特色とする、気風、スクールカラーとこれは辞書に書いてありますが、校訓という言葉がいいか悪いかはさて置きまして、仮に校訓というものを作るとしたら、例えば、校風、教風、学風ということで御提案をしています。例えば、校風というのは学校全体の教育理念なので、ある意味では教育目標なのかなとも思います。教風というのは、教師の心構え、学風というのは教えるを受ける児童・生徒の心構え、こういうふうになっておりまして、これは上海市の小学校の例としてね、こんなものが載っています。これは事務局の想定でございますので、校訓というのは混乱を招くので、一貫校については学校教育目標だけでいいということであれば、そういう御意見をお願いします。仮に校訓という言葉で何かあるのであれば御提出いただいて、事務局が例示した校風、教風、学風というような例示でよければ、分かりやすいものが何か御提示いただければと思います。

次のページを御覧ください。様式3でございますが、一貫校の校名でございます。校名は御承知の通り学校教育法上は四小、二中が残りますので、ただ一貫校の校名としてどの様なものが考えられて、どんな手続きが必要なのかいうことを想定していただきたいと思います。まず、校名ですが、これは御自由をお願いします。例えば武蔵村山学園でもいいし、緑が丘学園ということでも結構です。自由に発想してください。校名決定までの手続きですが、むしろこちらの方が大事だと思うのですが、仮に、来年度中に、第二中学校の生徒会に依頼し、第四小学校の児童会と一緒に校内で子供たちによる校名コンクールを行っていただいて、5案程度纏めていただく。その5案について、教育委員会にかけて教育委員による投票行為を行って教育委員が決定するというようなやり方が1つありますね。その他にもあると思います。例えば、地域に募集するとか、校長賞というのを決めてやるとか、様々あると思います。

次に様式4でございます。様式4は一貫校の標準服です。本日、委員の方から出ていましたが、標準服としては、確かにシンボルとしての意義があるというのはメリットとしてあるのですが、現在は中学校からでございます。事務局では、仮に保護者説明会でアンケートをとると、あるいは四小と二中の保護者にアンケートをとる。保護者の意向をまず把握するということがあります。次に、19年12月を目途に費用等を提示した上で、有無についてアンケートを取って、3番目として、3月発行予定の実施計画に導入の可否について教育委員会として提案したい。提案が決

<p>事務局</p>	<p>まったら、導入検討委員会等の組織を、来年6月を目途に四小と二中共通で設定して進めていくということでございます。これは案です。標準服導入について、要る、要らないっていうことを含めて、個人的な意見をお寄せください。</p> <p>様式5を御覧ください。シンボルマークです。四小と二中の校章は残るのでその他に一貫校のシンボルとしてのシンボルマークが必要と考えています。そこで、仮に一貫校のシンボルマークコンテストをやっていただいて、それを決めてさらに市内の図工部に依頼して「ワッペン」とか「シール」というような意匠にさせていただいて、それを一貫校の予算に計上して、封筒とか学校要覧にシンボルマークとしてもずっと使っていくという形です。御意見と対案をお寄せください。</p> <p>最後は、様式6学園歌です。校歌は残りますが、一貫校9年生が、全部で歌う歌を作る必要があるかと。学校を開校してからでも良いのですが、なかなかこれ大変ではないかと思っています。従いまして、現行の二中の生徒会に依頼して、小・中一貫校学園歌作詞コンテストを開催し、優勝した詞をもとに市内の音楽部に作曲を依頼する。あるいは、二中の現行の生徒に作曲を依頼する。そのようなことを決めて、一貫校のホームページに学園歌を掲載するというのを、仮に決めてあります。これについても、歌が要るか要らないかということも含めて、御意見をいただきたいと思えます。全部の委員からいただきたいのですけれども、仮に意見は特にないと、というような御意見でも結構です。これについてはまだ原案なので、事務局の提案でいいって言う場合はそれでもいいですし、何々はいらんって言う意見であればいらんって言うことでも結構ですし、特に意見がないのであれば、意見がなしでも構わないと思えます。いずれにしても来月の19日までに、電子データで、石田の個人端末にお送りください。なお、様式については事務局の方で作っていますが、自由ですので、項目さえ合っていれば、例えば(1)の教育目標について、お名前さえちゃんと書いていただければ、分かります。ここまでが、来月までの課題とお願いでございました。</p> <p>なお、今回は12月4日の火曜日3時から5時くらいまでを目安に、この場所で開催しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは今の事務局の説明について御質問等ありましたら、この場でよろしくお願いいいたします。よろしいでしょうか。それでは、お忙しいところ、毎回数多い課題を委員の皆さんにお願いして、御回答いただき、本当に感謝申し上げます。次回もよろしくお願います。それでは、これをもって、第3回カリキュラム作成委員会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>
------------	--